

ウクライナ危機緊急支援事業 オンライン報告会

ウクライナ危機緊急支援募金

緊急物資、心理的影響・トラウマケアのサポートを提供します。



© Adrienne Surprenant_MYOP

2022年6月22日 12:00～12:45

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン

ご注意事項



- トーク終了後、見逃し配信を予定しております。
そのためこのセッションを録画いたしますので、
ご了承ください。
- 質疑応答以外は、マイクはミュートに設定を
お願いします。
- 配信画面の録画、スクリーンショット、録音は
お控えください。

本日の流れ



12:00～12:45

1. 国際NGO「CARE」についてのご紹介

(ケア・インターナショナル ジャパン マーケティング部 轟木)

2. 「ウクライナ危機緊急支援事業」についての活動報告

(ケア・インターナショナル ジャパン マーケティング部部長 高木)

3. ウクライナ人道危機と難民問題

(ケア・インターナショナル ジャパン 副理事長

東洋英和女学院大学名誉教授

元UNHCR Japan国連難民高等弁務官駐日事務所代表 滝澤三郎)

4. 質疑応答

5. アンケートのお願い

はじまりは、「CAREパッケージ（ケア物資）」



■食べ物

缶詰と缶切り、全脂粉乳、チョコレート、干しぶどう、小麦粉、砂糖、マーガリンなど

※「乳児向け」、「幼児向け」、「標準食糧」など、発育段階に応じて異なる支援物資。きめ細かい配慮が。

■生活必需品

石鹸、木綿生地、シャツ、毛布など

■経済的な自立を促進する物

医療器具、大工用具、左官工事や電気工事のための道具や材料、農作物の種子や農具

支援を受ける側だった「戦後の日本」



1945年、戦後のヨーロッパを支援するために、アメリカの22の団体が協力して緊急支援物資を送ったのが、CAREの始まりです。

そして、1948年から8年間に亘り、**1,000万人の日本人**がCAREからの支援物資を受け取りました



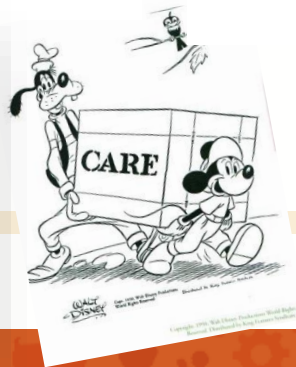
父親を原爆で失った広島少女



長崎の孤児院で暮らす戦災孤児たち



夫と息子を戦争で失った沖縄の女性



日本が経済成長を遂げた**1987年**、今度は

日本こそが、世界で苦しむ人々の助けになろう

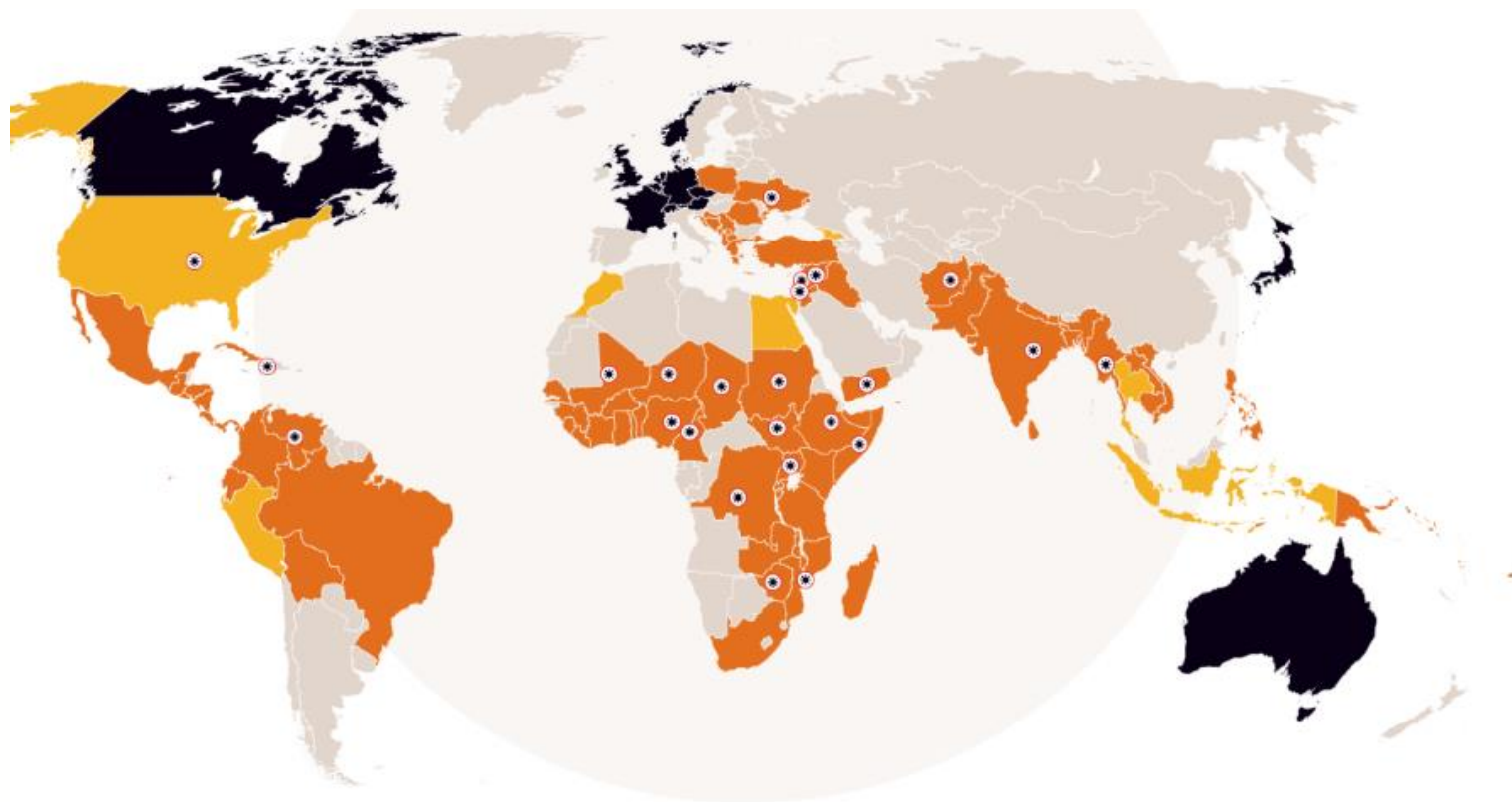
「**恩返し**」の想いで、ケア・ジャパンが発足しました。

CARE (ケア・インターナショナル)

The Cooperative for Assistance and Relief Everywhere



世界104ヵ国で、1万人の職員が活動
年間およそ**1,349事業**を通じて、**9,234万人**を支援しています（昨年度実績）



国際NGO「CARE」 ビジョン、ミッション、フォーカス



Our vision

We seek a world of hope, inclusion and social justice, where poverty has been overcome and all people live with dignity and security.

CAREは、貧困のない、すべての人々が尊厳をもって安心して暮らせる、希望に満ちた、包摂的で公正な世界を目指しています。



Our mission

Save lives, defeat poverty, and achieve social justice.

CAREは、人々の命を守り、貧困をなくし、公正な社会を創ることを使命とし、世界中でその実現に向けて取り組みます。



Our focus

We put women and girls in the center because we know that we cannot overcome poverty until all people have equal rights and opportunities.

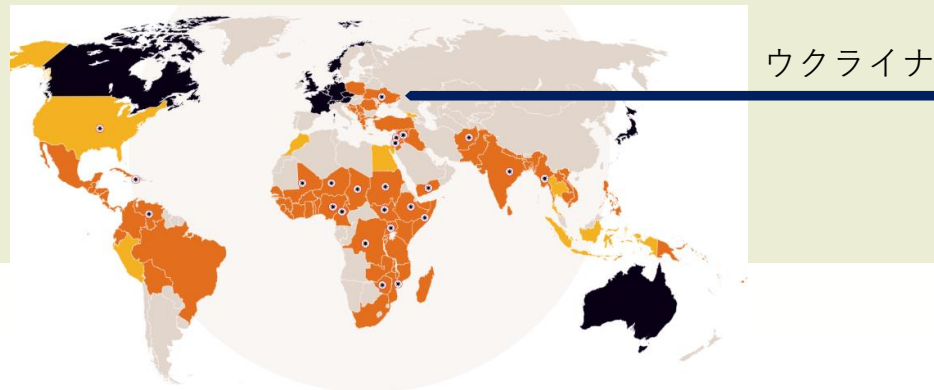
CAREは、「女性と女子」を活動の中心にすえます。
貧困をなくすためには、女性と女子を含むすべての人々が平等な権利や機会を得る必要があります。

ウクライナ危機緊急支援 ～CAREグローバルで取り組む～



【支援活動リードメンバー】

ウクライナ : CAREドイツ
ポーランド : CAREアメリカ
ルーマニア : CAREフランス
ジョージア : CAREコーカサス



ウクライナ



©Ninja Taprooge/CARE

ポーランドとの国境では
温かい食事と避難所を提供

ポーランド
(CARE アメリカ)



©2022 Raegan Hodge/CARE



東部ではスロベニア赤十字と
連携し水や食糧などを配布



©Aleš Černivec/CARE Germany

ジョージア (CARE コーカサス)

*括弧内は現地にて活動を主導する CARE メンバー / アフィリエイト国名

ウクライナ危機緊急支援 ～ローカルパートナー団体との連携～



UN WOMEN（国際女性機関）

性的暴力の防止、女性が紛争防止と解決のための意思決定に参画するよう働きかけ
CAREと共にジェンダーリポートを発表



People in Need

中央ヨーロッパで最大の非営利団体の1つ、人道支援において30年以上の実績
リヴィウなど、主にウクライナ国内での物資援助



INTERNATIONAL RENAISSANCE FOUNDATION（国際ルネサンス財団）

民主的価値観に基づくウクライナの開かれた社会を発展させることを目指す慈善団体
リヴィウ、キーウなどで病院や公共施設への資金援助、ボランティアのサポート



ウクライナ赤十字、スロベニア赤十字

1863年に生まれた世界最大の人道支援組織
ウクライナ国内への物資輸送において連携



FONPC（ルーマニア児童保護NGO連盟）

子どもの福祉政策の策定と再定義が専門
緊急心理社会的サポートとトラウマカウンセリングに関する研修プログラムを提供



SERA

CAREと20年の長きにわたりパートナーとして共に活動
ルーマニア国境にて物資支援や情報提供、心理カウンセリングなどのサービス

ウクライナ危機緊急支援 ～女性や子どもへのフォーカス～



CAREは、複数のパートナー団体と連携して、ウクライナ国内およびウクライナと隣接する国境にて、次のような、緊急支援活動を行っています。

- 1) 食糧、水、衛生用品などの緊急支援物資の配布
- 2) 避難や新たな生活に必要な現金や情報提供、法的サポート
- 3) 支援活動を行うグループやボランティアへの活動資金の支援
- 4) 学校スターターキット提供など、子どもたちへの教育支援
- 5) 心理的影響とトラウマを緩和するための心のケア
- 6) ジェンダーに基づく暴力からの女性や女子の保護・救済



CARE

UN WOMEN



UN WOMEN（国際女性機関）と「緊急ジェンダーレポート」発表

ウクライナの19地域の人々への調査とインタビューに基づく分析

ウクライナ人道支援における「女性や子どもたち（特に女子）」への配慮の重要性

戦争の長期化による危機的状況の中で、女性や女子の人身売買、搾取、性暴力、また、妊産婦死亡などのリスクが高まっています。

そのような中、特に女性や子どもたちへの**人道援助**と**保護**が必要となっています。

ウクライナ危機緊急支援事業 これまでの活動実績



2022年5月末現在：受益者数：難民計24,241人 / 国内避難民計247,440人

国	セクター	受益者数	特記
ウクライナ	食糧配布	183,190	
	現金支給	250	
	食糧輸送	64,000	ルーマニアからの食糧輸送
ポーランド	キャッシュフォーワーク (*避難民を一時的に雇用し賃金を支払う緊急雇用プログラム)	582	学童期にあるウクライナの子どもをポーランドの教育システムに統合支援する避難民教師の雇用
	現金支給	3,462	
	シェルター & 生活物資支援	10,395	
	心のケア	146	避難民の心のケアを担う精神分析医やセラピストへの研修 / 現地スタッフ向けGBV（ジェンダーに基づく暴力）に関する研修
	ウクライナからの避難民の受け入れ	1,950	
ルーマニア	心のケア	900	支援を担う現地の団体スタッフやボランティアへの研修
	生活物資、食糧支援、避難民保護	5,100	
ジョージア	現金支給	1,706	
	食糧 & 衛生用品支援	350	
	法的支援、避難民保護	205	

キーウに留まり、支援を続けるLyudmylaさんの話



© CARE/Sarah Easter

キーウに留まり、ボランティアを続ける Lyudmylaさん（写真・右）

地域のレストランや他のボランティアと協力し、1日あたり最大2,000食を提供。

「定期的に薬を必要としている200人には、自宅まで薬を届けています。彼ら・彼女らは身寄りがなく、困窮した高齢者がほとんどです。多くの方がお腹を空かせています。1週間も何も食べていないという90歳の女性もいました。中には癌を患っている人もいます。彼らは薬がなければ生きていけません」

「私はヒロインではありません。
冒険家でもありません。
いつだって恐いです。」

毎日が私の最後の日になる可能性があります。助けが必要です。ここで死にかけています」

現状と今後の活動



現状

国内避難民：1,200万人以上 UNHCR/Operational Data Portal(2022/6/16)

近隣諸国への難民/避難民：770万人以上 UNHCR/Operational Data Portal(2022/6/16)

CAREの支援を受けた人数：国内247,440人 / 国外24,241人 (5月28日時点)

ウクライナの3世帯に1世帯が食料不足

※特に、東部と南部では人口の50%が、中程度～深刻な食料不足

今後の 緊急 支援

<ウクライナ>

・現金支給と食糧配給

ムィコラーイウ、ヘルソン、ハルキウで約3,500人へ

・国内の4つの女性の権利団体と協力

一時的な避難所, 保護サービス, ジェンダーに基づく暴力への対応, 人道的活動への資金提供

<ポーランド> 現地団体と連携した現金支援プログラム、心理社会的サポート

子どもたちのための放課後および夏休みプログラム

<モルドバ> 難民対応に従事する900人の心理学者、ボランティア等を対象にした

緊急心理社会的サポートトレーニングの実施

⇒2023年3月～2025年2月 フェーズ2・3 (復興支援) へ

ウクライナ人道危機と難民問題

ケア・インターナショナル ジャパン 副理事長

東洋英和女学院大学 名誉教授

元UNHCR駐日代表

滝澤三郎

滝澤三郎

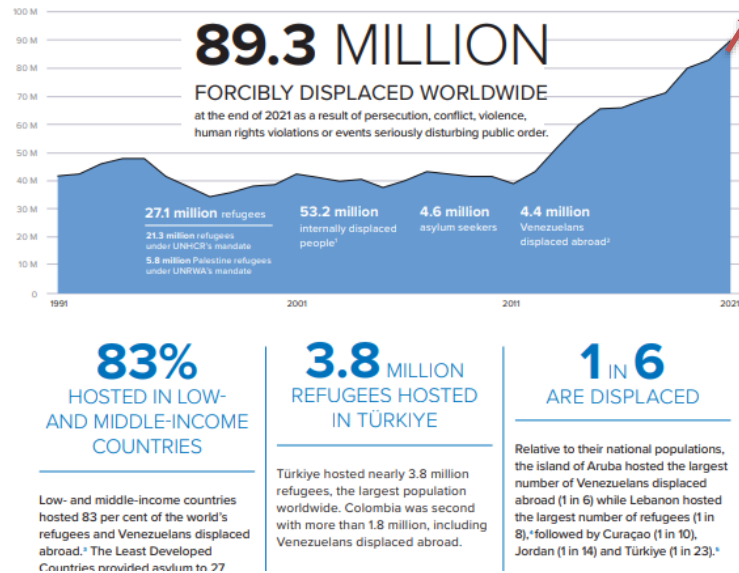
2022年6月19日国立競技場

- 1972 埼玉大学教養学部卒業
- 1976 東京都立大大学院を経てを法務省へ(～1981年)
- 1978～80 カリフォルニア大学MBA・CPA
- 1981～83 国連ジュネーブ本部
- 1983～91 UNRWA(国連パレスチナ難民機関)財務企画官など
- 1991～02 UNIDO(国連工業開発機関)財務部長など
- 2002～06 UNHCR (国連難民高等弁務官事務所)本部財務局長
- 2007～08 UNHCR駐日代表
- 2009～16 東洋英和女学院大学大学院国際協力研究科長
- 現在 東洋英和女学院大学名誉教授、ケア・インターナショナル副理事長など
- 趣味 66歳で始めたマラソン



そもそも問題は何なの？

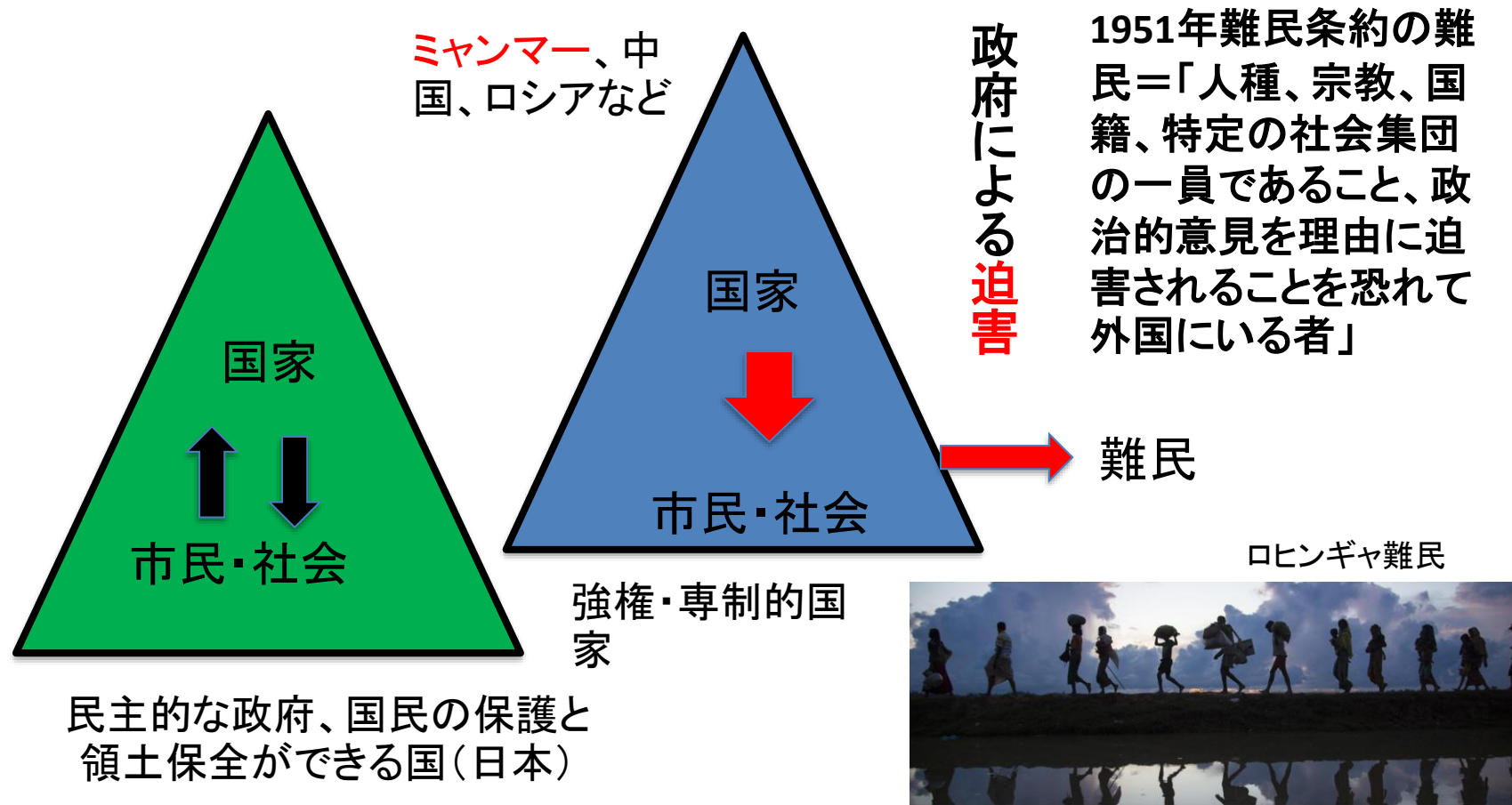
増え続ける国外難民と国内避難民



- 1981年には難民1000万人
- 1992年に難民・国内避難民が3700万人
- 2020年に両者合わせて8240万人
- **2022年には1億人を超えた(78人に1人)**

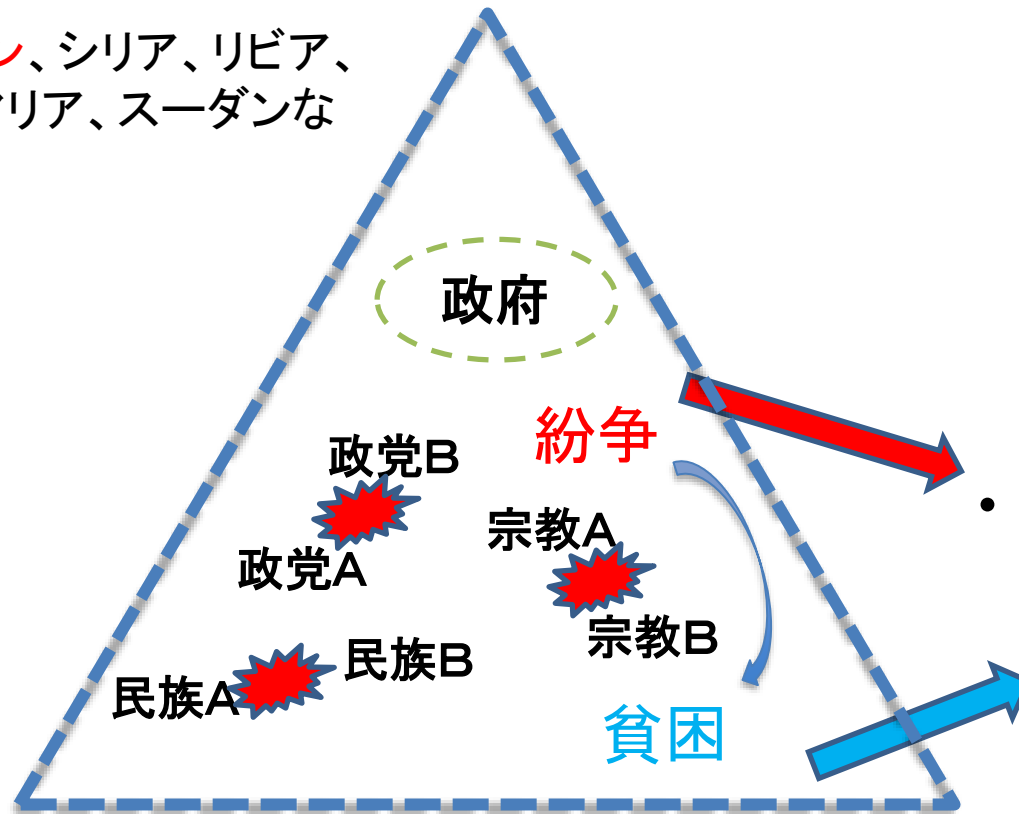
- 難民・避難民が出ている国
 - **ウクライナ1300万人**
 - シリア1100万人
 - ベネズエラ460万人
 - アフガニスタン400万人
- 難民を受け入れている国
 - トルコ380万人
 - **ポーランド280万人**
 - コロンビア180万
 - パキスタン150万人
 - **ドイツ130万人**
- 半分は女性、半分は子供

難民が出る理由①強すぎる政府



難民が出る理由②弱すぎる政府

アフガニスタン、シリア、リビア、
イエメン、ソマリア、スーダンな
ど



アフガン難民



- 数百万人の**紛争難民**
が経済移民と一緒に
逃げる

紛争、経済破綻、失業、食糧不足、治安・経済の崩壊

難民が出る理由③外国からの侵略

【写真特集】ロシアのウクライナ侵略

2022年3月7日 13:54 発信地: キエフ/ウクライナ [ウクライナ, ロシア, ロシア・CIS]

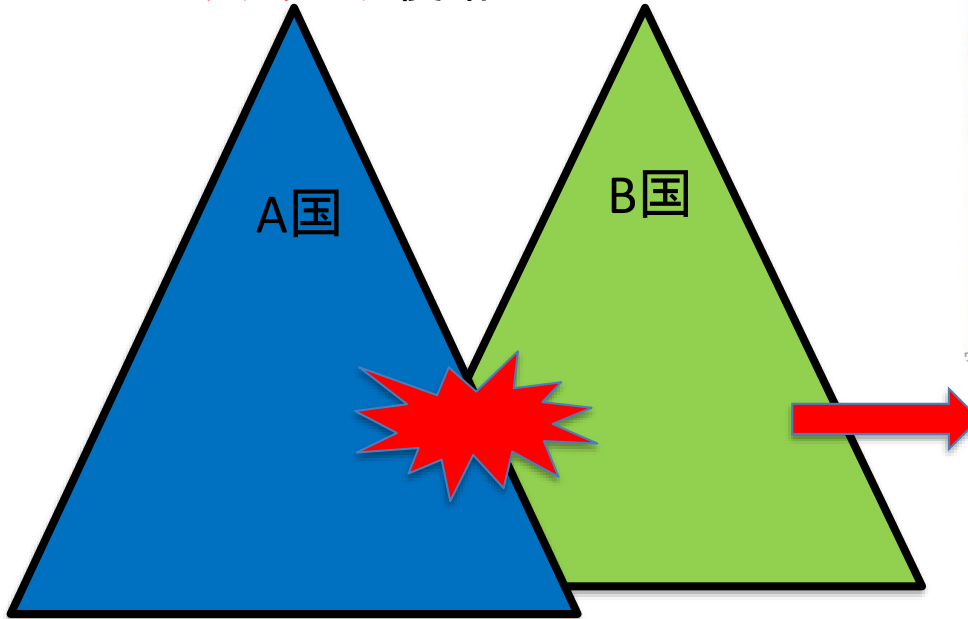


ウクライナ・リビウの地下鉄駅でポーランド行き列車を待つ人（2022年2月26日撮影）。(c)Yuriy Dyachyshyn / AFP

多数の戦争難民

1951年の難民条約では
想定されなかった

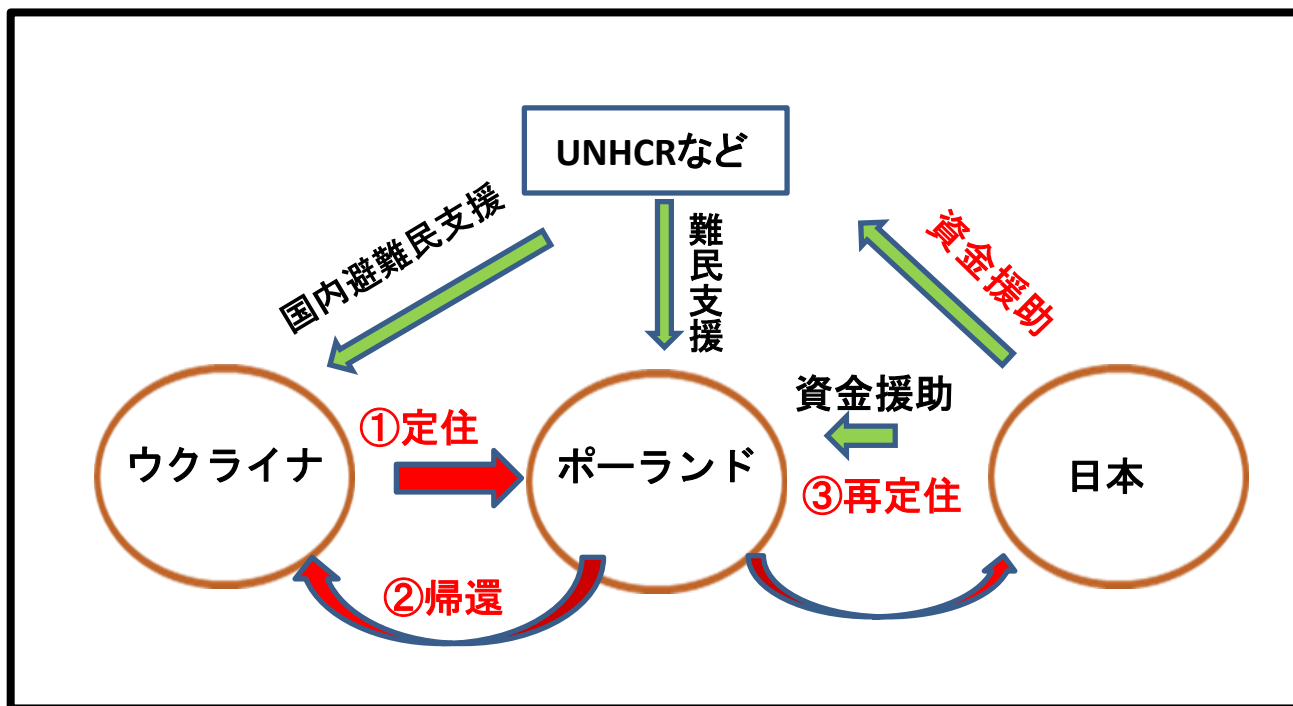
ロシアのウクライナ侵略



A国がB国を侵略

難民問題の3つの「解決法」

受け入れか資金協力



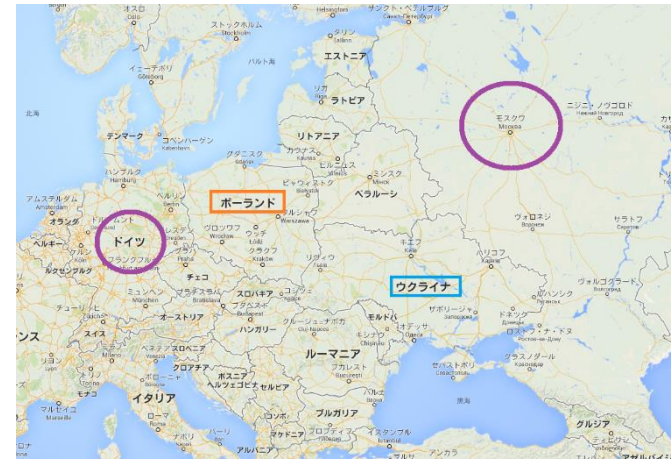
ウクライナ避難民の特徴は？

- ロシアの侵略から逃れる「戦争難民」
 - ウクライナ政府の迫害を逃れる「政治難民」ではない
 - 国内内戦などから逃れる「紛争難民」でもない
- 女性と子供が大半
 - 父親や夫は祖国防衛戦争に動員されて外国に逃げられない(家族が分断されている)
 - ロシアとの戦争が終われば大半が帰国する
 - すでに270万人が帰国
- 先進国の避難民
 - 教育を受けている(英語もできる)
 - 宗教的・文化的にも先進国に受け入れられ易い人々
- ポーランドなど欧州諸国は、700万人のウクライナ避難民を暖かく受け入れている
 - シリア難民などとの違い



大半のウクライナ避難民はポーランドに

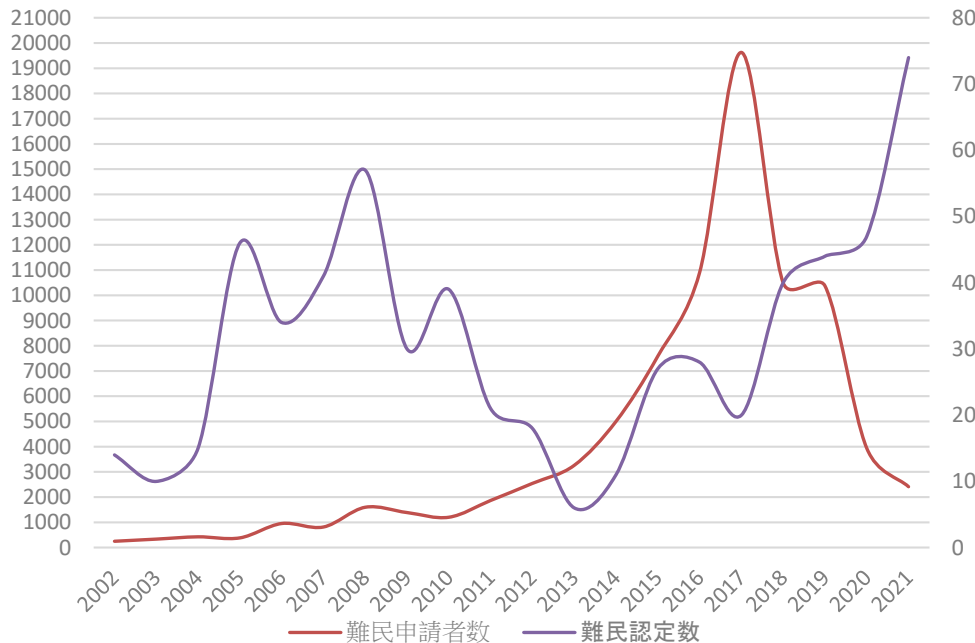
- 地理的条件
 - 陸続きで鉄道や道路も接続している
 - ドイツや北欧諸国に2次移動する場合の入口
- 社会的条件
 - 歴史、文化、宗教、人種、言語などを共有するか近い
- 経済的条件
 - EU諸国に出稼ぎに行くポーランド人に代わり、150万人ほどのウクライナ人がすでに移民として働いている
 - 家族や知人などの互支援ネットワークがある
- 政治的条件
 - 自由主義体制へのあこがれとロシアの支配を拒否する民族主義を共有する国



ポーランドなどEU諸国の対応

- 欧州諸国はウクライナ避難民を難民とは認めない
 - 通念上は「難民」だが国際法（難民条約）上は難民ではない
- そこでウクライナ避難民を「一時的保護」「**補完的保護**」
 - 避難民に対して、難民同様の権利と3年間の滞在を認める
 - 就労、医療、学校、社会保障など難民と同様の権利
- 各国の市民はウクライナ避難民を強力に支援している
 - 隣人同士の連帯感がある
 - 地理的に遠い国の悲劇より近くの悲劇のほうが心に訴える
 - 歴史的・文化的に近い避難民だから同情心が強まる

日本の難民受け入れ



- 2021年
 - 2413人の難民申請(赤)
 - 難民認定は74人(紫)
 - 525人は補完的保護
- 2022年
 - 今までにウクライナ避難民1300人の受け入れ
 - 年末までに2000人？
 - ミャンマーやアフガニスタンからの難民も受け入れの方向

長年続く日本「難民鎖国」批判

- 「日本は難民に門戸を閉じている」
 - エコノミスト誌 2015年4月
- 「もし難民なら、日本に行くことなんか考えるな」
 - ロイター通信2015年3月
- 「日本人には人間らしい心がない Japan lacks humanity」
 - 緒方貞子 Japan Times 2017年
- 外交的損失(評判コスト)
 - 「難民を受け入れる国内コスト」より「難民を受け入れない国際的コスト」が大きい



If you're a refugee, don't even bother with Japan

BY THOMAS WILSON



日本に難民が来ない理由

① 地理的な理由

- 中東やアフリカの紛争国から遠い
- 難民申請者の大半は東南アジアからの出稼ぎ

② 文化的理由

- 日本語の壁、宗教などの違い

③ 政治的理由

- 毎年2万人以上が難民になる中国から28人
- 毎年1万人以上が難民になるロシアから1人
- 北朝鮮からはゼロ

④ 日本政府のの厳しい難民認定

- 入管庁は「紛争難民」などは難民でなく、「人道配慮」で救済してきた

出身国	申請数
ミャンマー	612
トルコ	510
カンボジア	483
スリランカ	156
パキスタン	89
バングラデシュ	80
ネパール	69
インド	61
ナイジェリア	57
カメルーン	31

入管庁2021年難民統計から

日本に難民が来ない理由

⑤ 難民に否定的な国民

- 2020年の内閣府調査(1572人)
 - 国内での難民受け入れ:
 - 「少ない」55%
 - 「多い」11%
 - 「多い少ないの問題ではない」19%
 - 今後について:
 - 「積極的に受け入れるべき」24%
 - 「慎重に受け入れるべき」57%
 - 「現状のままでよい」16%
 - 何が心配か(慎重に受け入れるべき」と答えた人)
 - 「治安の悪化」67%
 - 「文化などの違いで暮らしにくくなること」39%
 - 「定住支援などの社会的負担が大きくなること」36%
- 否定的意識は変化しつつある
 - 2022年のウクライナ避難民の積極的受入れに70～80%が賛成

⑥ 社会的弱者や「よそ者」への関心が薄い

- Charity Aid FoundationのWorld Giving Index
2021では125か国中/125位

Table 2: Bottom 10 countries by participation in helping a stranger



Helping a stranger by country and ranking		People (%)
Latvia	116	32%
Slovakia	117	32%
Belarus	118	32%
China	119	31%
Croatia	120	30%
Czech Republic	121	29%
Madagascar	122	29%
Serbia	123	28%
Cambodia	124	24%
Japan	125	24%

ウクライナ避難民をきっかけに難民鎖国が終わる？

- 政府

- G7諸国による対ロシア国際連帯と国家安全保障の一環としてポーランド避難民を積極的に受け入れ
- 今まで1300人のウクライナ避難民を受け入れ
 - 年内に2000人？
 - 入管庁が1600件もの支援申し出を調整し、政府を挙げて定住支援
- 財政的支援
 - ポーランドなど受入れ諸国に1000億円の人道・経済支援
- 難民政策の転換
 - ウクライナ避難民をきっかけに「補完的保護」（準難民）の制度化を図る
 - 去年はアフガン避難民やミャンマー避難民など1000人を受け入れ、今年もアフガンやミャンマー人の難民認定を進める

ウクライナ避難民をきっかけに難民鎖国が終わる？

・ 民間

－ 「ウクライナ支援ブーム」

- ・ 自治体や企業、大学、NGOが住居、仕事、就学を提供
- ・ 日本財団はウクライナ避難民50億円を拠出し、多くのNGOも支援
- ・ 国連UNHCR協会へのウクライナ支援寄付金も異例の規模

－ 「支援ブーム」の理由

- ・ 女性と子供が大半の避難民への同情と共感
- ・ 国際法を無視した領土奪取は赦せない
- ・ 安全保障上の不安

－ 「難民開国」には国民の理解と支持が必須



日本(CARE)の支援の意義

私は「今」を生きるだけ

- 国際的評価
 - 「遠く離れた日本の支援に感動」
 - G7からは特に評価
- 日本の「難民開国」を後押し
 - 難民受け入れの基盤が整備
- 国際問題に対しての理解が進む
 - 避難民から学ぶ「戦争と平和」
- 「助ける人を助ける」国際協力



緊急募金 実績報告



日本での寄付総額

21,292,250円（5月末現在）

※延べ3,000人以上の
皆さまからご支援を頂きました。

寄付者の皆さまから、お寄せいただいたコメント一部

・国外への避難者に目が行きがちなところ、ウクライナ国内に留まらざるを得ない人たちを支援するという発想に感銘を受けました。（E・K様）

・子どもたちや女性たちをはじめとする一般市民の生命が奪われることに憤りを覚えます。一日も早く平和が戻りますように。（C・Y様）

・寄付を行っている心優しき皆さん全て、実際に各地で活動している勇気ある皆さん全てを称賛します。

そして、これからも粘り強く支援しようと考えている皆さんを応援します。（Y・U様）



寄付金控除型 #ヨーロッパ #社会にいいこと #国際協力 #人権 #マイノリティ #避難所 #発展途上国 #難民 #貧困 #寄付金控除型 #ウクライナ

ウクライナ緊急支援 | 国内に留まらざるを得ない人々に人道支援を

公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン



寄付総額
6,657,000円 目標金額 1,000,000円

寄付者 募集終了日
405人 2022年5月31日

フォロー中

プロジェクトは成立しました！

シェア ツイート LINEで送る 印刷する

毎月のご寄付のご案内



READYFOR

「1日33円からの人道支援サポーター」
6月末までに30人の「継続寄付」募集中！

ウクライナ支援をはじめとする
CAREの人道支援を継続的にご支援ください。



例えば **毎月1,000円**（1日33円）×12か月の継続寄付で

ウクライナ国境を越えて避難する4世帯（家族）に対して、石鹸、洗濯洗剤、歯ブラシ、ウェットティッシュ、衛生用品などが入った**緊急衛生キット**を提供できます



例えば **毎月3,000円**（1日100円）×12か月の継続寄付で

避難生活を余儀なくされている7世帯（家族）に対して、携帯電話、SIMカード、外部バッテリーを提供。故郷に帰還した**友人や家族とつながり**、今後の生活について考えることに役立てることができます。



例えば **毎月5,000円**（1日166円）×12か月の継続寄付で

ウクライナ国境に設置された支援センターで、**赤ちゃん**と避難した母親6人に対して、おむつ、おしりふき、粉ミルク、離乳食、魔法瓶など、**乳幼児キット**を提供できます



このプロジェクトでは継続的な支援を募集しています

継続寄付

寄付金控除型

ウクライナ危機 ～1日33円からの人道
支援サポーター募集！



公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン

マンスリーサポーター

18人

目標人数 30人

60%

ありがとうございました。



さいごに、アンケートへのご協力をお願いします。

<https://forms.gle/Mkvi6896G7sFBcXy5>

